



4 高村光雲《矮鶏置物》

明治二十二年（一八八九）

桜材、木彫

雄・高三三・〇

雌・高二二・〇

近代の美術に大きな足跡を残した彫刻家、高村光雲（二八五二〜一九三四）の動物彫刻の代表作のひとつ。明治二十一年、光雲は美術商若井兼三郎より、翌年に開催されるパリ万国博覧会への出品作を依頼され、雄のチャボを主題に木彫に取り組んだ。光雲の談話によれば、モデルに適当なチャボを探すのに苦労し、やっと満足できるチャボを手に入れて、手で観察しながら彫り進めるうちに、同博覧会への出品に間に合わなくなり、その後、周囲の勧めで、明治二十二年四月開催の日本美術協会美術展覧会に明治天皇が行幸される当日に特別に出品したという。この時、光雲の作品はお買上げの栄を受けた。まもなくして、「雄一羽では淋しいから」と、対となる雌の製作が宮内省より依頼があり半年ほどをかけて製作している。雌雄を別々に彫ったにはバランスよく、仲良く寄り添う姿となっている。この作品が世に知られた事で、その後、展覧会出品作の主題としてチャボが流行した、と光雲の門人である山本瑞雲が語っている。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan